



舞鶴市立明倫小学校
令和7年9月30日
10月号



失敗こそ成長のチャンス

2学期が始まりひと月が過ぎて、本年度も折り返しの時期となりました。秋本番、これからの学習や体験が力となり、一人一人の自信につながる季節にしていきたいと思います。

児童会のスローガン「同心協力 ～明倫の輪を広げよう～」の下、運動会に向けた練習も熱を帯びてきました。朝は、全校で踊る「明倫ソーラン」の音楽が響き渡り、「どっこいしょ、どっこいしょ ソーラン、ソーラン」と元気な掛け声があちこちの教室から聞こえてきます。業間休みは、応援練習です。赤組、白組のリーダーたちが考えた楽しくパワフルな「エール」や「応援歌」の音が響いています。

2学期は運動会をはじめ様々な学校行事が続きますが、それらの行事は、子どもの集団の質を高める大きな節目となります。

子どもたちは、学級という集団を中心に生活していますが、学校生活が楽しく充実したものになるためには、集団の質を高め、一人一人が自分らしくいきいきと活躍できる場となるよう努めることが大切であると考えています。

運動会は、集団や一人一人の力を鍛え、育てる絶好の機会です。成功だけでなく「うまくいかなかった経験」も含めて、子どもたちにとって大きな学びの場です。思い通りに走れなかったり、緊張して失敗してしまったりすることもあるかもしれませんが、でも、そうした経験こそが、子どもたちの心を強くし、次への意欲や工夫する力につながっていきます。演技や競技でも、先生が全て決めずに子どもたちに主体的に振り付けを考えさせたり役割を工夫させたりして、失敗をどんどんさせながら自分たちの手で運動会を創り上げるやりがい味わわせようと取り組んでいます。

保護者や地域の皆様には、ぜひ結果だけでなく、そこに至るまでの努力や挑戦の過程にも目を向けて、応援に来ていただきたいと思います。「がんばったね」「悔しかったね」「次はどうしたい？」そんな声かけが、子どもたちの心を支え、折れにくい力を育てていきます。

子どもたちが失敗を恐れず、挑戦する姿を、どうぞ温かく見守ってください。

10月も、教職員一同、安心・安全な教育活動に努めてまいります。保護者や地域の皆様には、引き続きご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。



「明倫ソーラン」のお手本を見せる
6年生

校長 岡本 恵理子 教職員一同

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

舞鶴市立明倫小学校

4月に全国の小学6年生と中学3年生が「全国学力・学習状況調査」を受検しました。今年度は、例年実施する国語・算数に加え、理科も実施しました。夏に、その結果が報道されていましたが、本校においても、個人懇談会で個別の結果を返却しました。全国的にも、学力が低下している傾向にあることを言われていましたが、本校も国語、算数、理科において、平均点を下回る結果となりました。今回の結果から、各教科の実態を分析し、授業改善に活かしていきたいと考えています。

【国語】

○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫し、表現できる。

●目的に応じて必要な資料を選択し、文章と図表等を結び付けることが難しい。事実と感想、意見の叙述のつながりを捉え、文章全体の構成を理解して要旨を理解する力に弱さが見られる。

【算数】

○伴って変わる2つの量に着目して、必要な量を求めることはできる。また、分母が異なる分数の計算をすることも得意である。

●分母の異なる分数の計算において、共通する単位分数を見だし、図や言葉を用いて説明することに弱さが見られた。分数の量感を捉える力が課題である。

【理科】

○水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる。

●電気を通すものと磁石に引き付けられるものの違いを捉えることに弱さが見られた。また、電気の回路の作り方について、実験の方法を考えたり、起こった現象について説明したりする力も課題である。

【授業改善の視点】

本校の児童は、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童の割合が高いです。そこで、自らの考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりする力をさらに高めるため、ICTを活用した授業づくりを大切にしていきたいと考えています。ICTを活用することで、効率よく児童同士のコミュニケーションを促すことができます。また、本校の児童は、資料を活用する際に、必要な情報を読み取ったり、資料と資料を関連付けたりすることに弱さが見られました。改善策として、日常の授業の中で意識的に資料を活用する場面を設定し、必要な情報を精選させたり、自分の言葉で詳しく説明したりする活動を取り入れ、授業改善を図っていききたいと考えています。特に、算数科では、分母が異なる分数の計算について、計算はできても、どのように計算したらよいかを説明する力に課題が見られました。説明する力を高めるためにも、図や言葉だけでなく、式や数直線とつなげて考え、説明する学習活動を積み上げていきたいと思います。

また、本調査では、生活とのつながりが多い問題や、他教科の学習と関連付けた問題が多く出題されていました。実生活につながる学習課題を設定する工夫が必要です。実生活の中で経験したことと授業の中で学習したことを関連付けて考えることで、いろいろな視点から物事を見たり、発想豊かに考えたりする力を付け、学力の向上へつなげていきたいと考えています。